



虹色

＝発行＝
秋田県生涯学習センター
〒010-0955秋田市山王中島町1-1
TEL :018-865-1171
FAX :018-824-1799
E-mail :sgcen002@mail2.pref.akita.jp
編集:社会教育アドバイザー

毎回盛況です

秋田の文学とその背景を尋ねる～あきた文学講座

美の国アクティブカレッジ、北条常久シニアコーディネーターによる「あきた文学講座」は、著名な作家が描いた秋田について、作品を通してその背景を学ぶ講座です。

4月25日(木)に行われた第1回目は、伊藤永之介の「総督府模範竹林」、5月30日(木)の第2回目は千葉治平「蕨根を掘る人々」でした。参加者が、毎回100人を超す盛況です。

人と人の出会いにより文学が生まれ、出会いが山脈のようにつながっていく様が、新たな視点で照らす各作品から読み解かれていきます。シニアコーディネーターの軽妙な語りに、受講者の皆さんは楽しく深く学んでいます。

第1回 伊藤永之介 「総督府模範竹林」



永之介の植民地文学を読みます。

第56回『農民文学賞』 受賞記念講演

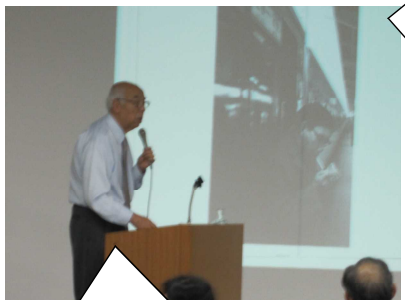
第1回目の講座は、このたび北条シニアコーディネーターが、評論「伊藤永之介の農民文学の道」で第56回農民文学賞を受賞された、記念講演として行われました。

あきた文学講座は、毎回120人～130人の参加者があり、皆さん熱心に耳を傾けています。



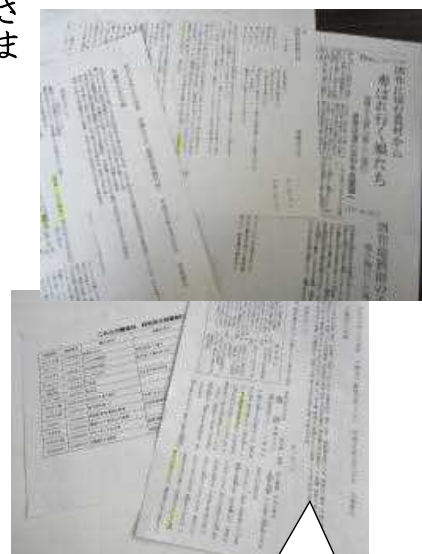
土崎版「種蒔く人」に導かれて、永之介は上京します。

第2回 千葉 治平 「蕨根を掘る人々」



「蕨根を掘る」
冬場にそのデンプンを食べるのいなのです。他に食べるものが無かったのです。戦後の貧しさ、農村の混乱が報告されています。

「月刊さきがけ」の公募小説一等となりました。審査員の伊藤永之介は疎開中で、これを契機に師事しました。



資料を参照しながら、講義が進みます。

第56回農民文学賞受賞 おめでとうございます

評論「伊藤永之介の農民文学の道」で、第56回農民文学賞を受賞された、北条常久シニアコーディネーターの受賞のことばを季刊『農民文学』から抜粋引用します。

伊藤永之介は日本農民文学会の会長であったが、鳥獣物しか書けない農民作家という扱いに満足していなかった。現在刊行中の同じ集英社刊の『戦争と文学』シリーズで伊藤永之介の「総督府模範竹林」と「万宝山」が取り上げられている。

私は、伊藤永之介に新たな脚光が当てられたと喜んでいる。今、出口を失ったかに見える日本の農民文学の行く手を照らしているかに思える。

私は、小学校しか出ていない少年永之介が、「種蒔く人」に文学を発見し、その同人に導かれて辛苦の中に真の農民文学の道を歩んで行った人生を描いてみたつもりである。

5月30日(木)には、北条シニアコーディネーターを囲む会が行われ、昼食をとりながら文学談義に花が咲きました。

国文祭の予定は？

「秋田の文学を知ろう」との題で講演の予定です。



玄関ホール展示

~NPO秋田千秋はすの会~活動紹介・作品展



千秋公園大手門堀他の「蓮」を貴重な資源としてとらえ、研究・イベントにより秋田市の活性化に寄与しようと活動しているNPOです。

蓮の実に飾られた人形その他、蓮の繊維を染め、織ったタペストリィなど、力作が展示されています。

展示期間

5月22日(水)から
6月30日(日)まで

~~~~~ 講座案内 ~~~~~

6月の美の国アクティブカレッジ

- 8日(土) A講座(センターキャンパス)
A-4大阪詰勘定奉行の憂鬱
- 8日(土) C講座(センターキャンパス)
C-4地域資源と地域活性化
- 15日(土) J講座(新屋キャンパス)
J-1羽州浜街道の宿場町新屋
J-2あらや歴史探訪[移動学習]
- 16日(日) あいLOVEあきた
K-2大森山動物園の挑戦
- 21日(金) 連携講座
明快! Artゼミ
- 22日(土) A講座(センターキャンパス)
A-5経済有用の学の実践
- 22日(土) C講座
C-5白神山地が育む奇跡の酵母
- 27日(木) あきた文学講座
L-3鹿島茂「バリでひとりぼっち」
- 29日(土) F講座(八峰キャンパス)
F-5砂丘と人々のくらし
F-6ジオパーク見聞
[バス移動学習]

秋田の句碑

つゆ涼し夜と別るる花の様
清水溢れて大川に注ぐなり

石井露月